

## 当院の医療安全への取り組みについて

医療法人 整形外科 北裏病院

医療安全委員 木村美加代

当院は、整形外科主体で、四肢骨折や脊椎疾患等で治療や手術を受けられる患者が多く、一般病棟 100 床を有する地域密着型病院で質の高い医療を提供し、地域医療に貢献しています。

医療安全管理については、医療安全管理指針の基本理念より、それぞれの医療従事者の個人レベルでの事故防止対策と、医療施設全体の組織的な事故防止対策の二つの対策を推し進めることによって、医療事故の発生を未然に防ぎ、患者が安心して安全な医療を受けられる環境を整えることを目標としています。当院においては、病院長のリーダーシップのもと、全職員がそれぞれの立場からこの問題に取り組み、患者の安全を確保しつつ必要な医療を提供していくものとしています。

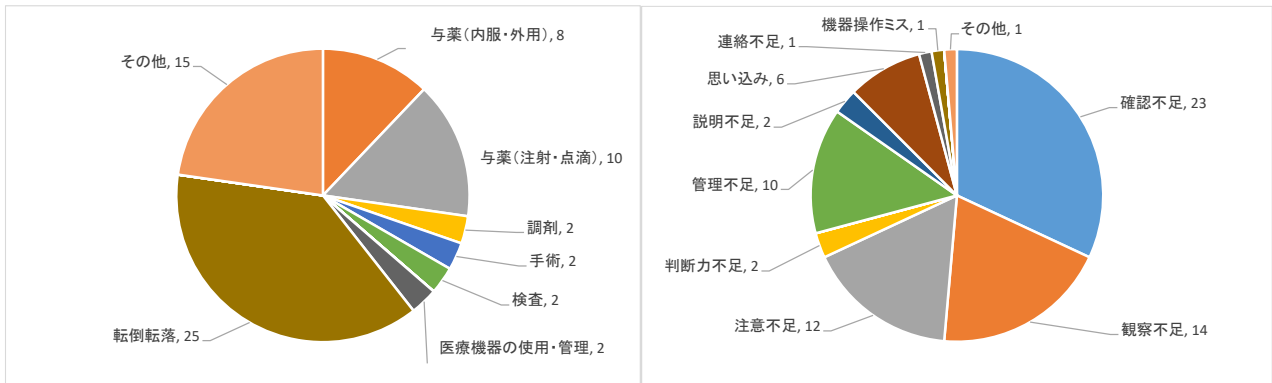
医療安全管理委員会は、原則として月 1 回程度定例会を開催するほか、必要に応じて委員長が召集することになっています。

医療安全委員会の任務として

- ①医療安全委員会の開催及び運営
- ②医療に係る安全確保を目的とした報告で得られた事例の発生原因、再発防止策の検討及び職員への周知
- ③院内の医療事故防止活動及び医療安全に関する職員研修の企画立案
- ④その他、医療安全の確保に関する事項

内容	件数	割合	原因	件数	割合
処方	0	0%	確認不足	23	32%
与薬(内服・外用)	8	12%	観察不足	14	19%
与薬(注射・点滴)	10	15%	注意不足	12	17%
調剤	2	3%	判断力不足	2	3%
手術	2	3%	技量不足	0	0%
検査	2	3%	管理不足	10	14%
輸血	0	0%	説明不足	2	3%
食事と栄養	0	0%	思い込み	6	8%
医療機器の使用・管理	2	3%	連絡不足	1	1%
転倒転落	25	38%	機器操作ミス	1	1%
リハビリテーション	0	0%	人員不足	0	0%
事務	0	0%	機器保守・管理ミス	0	0%
情報・記録	0	0%	患者に原因	0	0%
その他	15	23%	その他	1	1%
計	66	100%	計	72	100%

表 1. 年間インシデント件数



グラフ 1. 1年間の「内容別件数」、「原因別件数」グラフ

医療安全管理のための研修の実施として、1年に2回程度全職員を対象として実施しています。それ以外にインシデント件数で、医療機器の操作ミスや、点滴の接続ミスなどの確認不足による初歩的なミスがやや多いため、看護部は医療機器研修を行い、各自の能力アップにつなげています。

当院のインシデントは転倒転落の事例が、約4割を占めています。病棟では、転倒転落しやすい状況を本人や家族に説明して、靴やベッドの環境を整えるなど基本的な対策はもちろん実行しています。それに加え患者の状態をどれだけ把握できているか、小さな変化に気付けるかが事故を防ぐためのポイントとなります。説明や指導の意図が患者に上手く伝わらないこともあり、難しい問題ではあります。以前は、体動コールやセンサーマットの使用などを改善策としてあげていましたが、より不穏症状が悪化し転倒転落のリスクが高くなったことがありました。それよりも、リハビリを強化して動きを見守ることで防ぐことができるようになりました。リハビリの強化として、病室内でも筋力アップにつながる方法を理学療法士に教えてもらい患者に指導しています。不眠時の眠剤についても薬剤師に相談しながら、昼夜逆転しないように薬の調整してもらっています。在宅復帰に向け、患者と家族に寄り添った環境づくりを多職種で取り組んでいます。

医療安全委員会では、毎月インシデント・アクシデント報告書を、収集して多職種でカンファレンスを行い、別の視点での意見を分析し結果を各現場にフィードバックしています。マニュアルについても随時見直しを行っています。R4年4月からR5年3月までのインシデント・アクシデントについては、全体の件数として増加傾向にあります。患者影響レベルをみると3aのアクシデントが2件あったが、それ以上のものがなくインシデントでおさまっています。個人・部署間の情報共有がうまくいくと、大きなミスの予防になります。今後も甚大なアクシデントに発展させないように各自が意識をたかめ、部署同士の連携を強化することも重要であると考えます。安全で質の高い医療を提供するために、病院スタッフ一人一人が、医療安全の必要性・重要性を自分自身の課題と認識し、最大限の注意を払いながら日々業務に従事していき、今以上に患者を尊重し家族と多職種と共に協力しながら、組織的にも医療安全に取り組んでいきたいと思っています。



図 1. 医療安全委員会会議の様子